

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイストレーニングⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	自身のソロプロジェクトにて作詞作曲をするなどシンガーソングライターとして積極的に活動中。 ヴォイストレーナーとして後進の育成も行っている。					
授業概要						
楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。 シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	身体づくりの腹式発声					
【前期】 5～8回目	強さと基本発声(歌唱への活かし方・脱力)					
【前期】 9～12回目	前期試験					
【前期】 13～17回目	発声に関する資料をみながら前期の復習					
【後期】 18～21回目	高音域(歌唱への活かし方・脱力)					
【後期】 22～26回目	ロングトーン					
【後期】 27～31回目	声のトーン					
【後期】 32～34回目	後期試験、1年の振り返り					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカリスト基礎知識		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ヴォーカリスト基礎知識	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	様々なステージ、メディア出演を経験、現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。					
授業概要						
ヴォーカリストとして活動していく上で必要な基礎知識を学びながら、音楽・エンターテインメントの見識を元にした様々な体験を重ねる。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な基礎的知識を学ぶことによって、活動していく上でのスキルを身に着ける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	■音域・フィジカルチェック ■音楽の三大要素メロディ・ハーモニー・リズムについて知る ■音階・音程・コード・拍子等について知る ■コード理論を知る(トライアドまで) ■著作権について知る ■音楽専門用語・業界専門用語について知るジャンル曲調について知る ■フィジカルトレーニング					
【前期】 5～8回目	■ステージング・ライブパフォーマンスについて知る ■発表会 ■発表会を振り返り、ヴォーカルパフォーマンスにおける長所・短所を自覚する ■マイクについての知識、ダイナミックとコンデンサー、各メーカーの特徴などヴォーカルが知っておくべきマイク・機材の特性を知る ■前期試験対策授業 ■フィジカルトレーニング					
【前期】 9～12回目	前期試験					
【前期】 13～17回目	■前期試験答案返却・復習 ■アカペラコーラス講習 ■フィジカルトレーニング					
【後期】 18～21回目	■ライブ業界(ライブハウスやホールでのイベント・ライブ運営、自身で外ライブを行うまでに必要な過程など)を知る ■オーディション・プロジェクトへのエントリー用プロフィール作成を通じてセルフプロデュースを知る ■MCや作詞を通じて 言葉での表現技術を知る■フィジカルトレーニング					
【後期】 22～26回目	■コード理論を知る(7thコード・テンションコード・分数コードなど) ■有名なカバー曲からアレンジ能力を知る ■実践型コード理論・音楽理論を通じて 作曲・編曲に活かせるテクニックを知る ■ジャンル毎のグルーヴ・ビートからリズムの構造を知る ■アカペラコーラス講習 ■フィジカルトレーニング					
【後期】 27～31回目	後期試験					
【後期】 32～34回目	■良質な音楽が扱われている映画やライブ・コンサート等の動画鑑賞 ■アカペラコーラス講習 ■フィジカルトレーニング					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルテクニックⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	自身のバンドでメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動中。					
授業概要						
先ず既存のフレーズの発声面、技術面の分析及び解説を行い、それぞれの技術の目的と使った結果の効果を理解させる。次に、講師が作成したフレーズにどのように技術を織り込むかの実践を行い、それらを使うセンスも身に付けさせる。						
到達目標						
歌詞の内容やオケ(楽器)の演奏に対して、“どの声でどの技術をどのポイントで使うのか”を身に付け、聴衆に感動を与える歌が歌えるようになることを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	授業の目的を説明し、アップテンポ曲を用いてアタックやアクセントの意味を理解。歌詞の世界観を伝える発声・表現と、リズムやグルーヴの作り方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	リリースアウトに使うヴィブラート、フレーズ頭で使うエッジの目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。					
【前期】 9～12回目	フレーズにグルーヴを与えるバンドの内容を理解させ、様々なメソッドを知識として学ぶ。					
【前期】 13～17回目	フレーズ内に息の音をわざと入れる方法と目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。 ウイスパーとファルセットの出し方の基本的な形を学び、様々なメソッドを学ぶ。更に、ナチュラルヴォイスとの切り替えに対して必要な身体の使い方を学び、実際の歌唱に繋げていく。					
【後期】 18～21回目	エキセントリック歌唱に効果的なヒーカップ、リリースアウトに入れることで効果を生むフォールの内容と目的を学び、それを習得するメソッドを学習する。					
【後期】 22～26回目	総復習					
【後期】 27～31回目	講師が作成したアップテンポの1フレーズに対して、今まで学習してきたことを活かして歌詞、メロディー、オケ(楽器演奏)に対して、その世界観を伝える効果的なフレーズの作り方を考察する。					
【後期】 32～35回目	後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ダンスAⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ダンスAⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	メジャーアーティストのバックダンサーとして全国ツアーなどを経験。 現在も数多くのアーティストのバックダンサー等で活躍中。					
授業概要						
ダンスの基礎となる身体の使い方、リズムの取り方、技やステップを学び、柔軟や姿勢の矯正などを行い パフォーマンス能力の向上と、魅せてしっかりと伝わる表現方法の指導						
到達目標						
アイソレ・リズムトレーニング・ブリエ・筋トレ(身体作り)などジャンルを絞らず最低限必要な基礎をしっかりと身につける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	ストレッチ、筋トレ(腹筋、腕立て、体幹トレーニングなど)、アイソレーション 基本的なリズムトレーニングを中心とした授業					
【前期】 5～8回目	アイソレーション、基本的なリズムトレーニング STEP(バドブレ、クラブ、チャールストンなど)を中心とした授業					
【前期】 9～12回目	アイソレーションの応用、リズムトレーニング、 様々な技の習得(キャベッジパッジ、ランニングマン、ロジャーラビットなど)を中心とした授業					
【前期】 13～15回目	前期で習った技やSTEPを組み合わせたコンビネーションを覚えしっかりと踊れるようにし 前期のテストに備えた練習を中心とした授業					
【後期】 16～20回目	前期の復習、技の習得(ニュージャックスウィング、ウォッシングマシーンなど)を中心とした授業					
【後期】 21～25回目	リズムトレーニング応用、技の習得(トゥループ、ドロップ、ゲスなど)を中心とした授業					
【後期】 26～30回目	HOUSEダンスのSTEP(ルーズレッグ、スイッチなど)の習得 細かい身体の使い方を理解し、表現の幅を広げる					
【後期】 31～35回目	1年間で学んだ技やSTEP、身体の使い方を振付の中で表現できるようにすることを中心とした授業					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ステージパフォーマンスⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ステージパフォーマンスⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	有名アーティストのバックダンサーやMVに出演。テーマパークのパレード・ショーダンサーも務め、幅広く活躍している。ダンス部の指導者でもあり、インストラクターとしても活動中。					
授業概要						
人前で表現する事の心構えや他者との協調性を学ぶ。						
到達目標						
ステージに立つ為の集中力、想像力、表現力、忍耐力等の習得						
授業計画・内容						
【前期】 1～8回目	歌・ダンスのオーディションを行い、1つのショーケースを創り上げるため、それぞれの役割を決める。 ソロ曲の選曲・選抜ナンバーの選考などもオーディションの結果によって決定する。					
【前期】 9～16回目	グループでの曲選曲・メンバーに適している曲を選曲し、講師によるパート割、ハモリなどを行う。 ダンスは講師のアドバイスをもとにセクションに分け、学生それぞれで振り付け・構成を作っていく。					
【前期】 17～24回目	パートや振り付けの完成度を上げる作業に入る。 お客様に見ていただくにあたり、最低限の表現力を身につける。 自身の役割の中でベストのパフォーマンスを身につける。					
【前期】 25～30回目	本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。振付・本番の流れを全員で揃えていく。 通し稽古を開始。 前期試験					
【後期】 31～40回目	歌・ダンスのオーディションを行い、1つのショーケースを創り上げるため、それぞれの役割を決める。 ソロ曲の選曲・選抜ナンバーの選考などもオーディションの結果によって決定する。					
【後期】 41～50回目	グループでの曲選曲。作品の内容に対しどのような楽曲が自分達に作品に適しているかを考え選曲する。 パート割をし、主旋律、ハモリなどそれぞれ入れていく。 グループに分かれて振付を考案					
【後期】 51～70回目	本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。 振付・本番の流れを全員で揃えていく。 通し稽古を開始。 後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ダンスB I		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ダンスB I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	メジャーアーティストのバックダンサーとして全国ツアーなどを経験。 現在も数多くのアーティストのバックダンサー等で活躍中。				
授業概要					
基本的な体の使い方や基礎のステップなどを学び、それを基に自分で振付が出来るようになるよう指導。曲は基本的にJ-POPを使用し、歌詞ともリンクさせた振付をする。					
到達目標					
曲にあった(ポイントを押さえた目に留まるような)振付を考えられるようになる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等				
【前期】 5～8回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等、講師の振付を覚える				
【前期】 9～12回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等、自分で振付をする				
【前期】 13～17回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等、グループでワンコーラス分の振付を完成させる(構成も考え、自分の振付をクラスメイトに教える)				
【後期】 18～21回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等				
【後期】 22～26回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等、講師の振付を覚える				
【後期】 27～31回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等、自分で振付をする				
【後期】 32～35回目	ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング等、グループでワンコーラス分の振付を完成させる(構成も考え、自分の振付をクラスメイトに教える)				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	フレージング		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	フレージング	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ヴォイストレーナーとして数多くのアーティスト指導を行う傍ら、現在も自身のメジャーデビューしたバンドにおいてヴォーカリストとして精力的に活動中。					
授業概要						
先ず既存のフレーズの発声面、技術面の分析及び解説を行い、それぞれの技術の目的と使った結果の効果を理解させる。 次に、講師が作成したフレーズにどのように技術を織り込むかの実践を行い、それらを使うセンスも身に付けさせる。						
到達目標						
歌詞の内容やオケ(楽器)の演奏に対して、“どの声でどの技術をどのポイントで使うのか”を身に付け、聴衆に感動を与える歌が歌えるようになることを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	アップテンボの曲①を使用、アタックとアクセント」歌詞やメロディーに対して、その世界観やメッセージを伝える歌い方に必要な発声法及び表現法を学ぶという内容を理解させる。アップテンボの例題曲を使用し、アタック、アクセントの意味や目的の理解をさせ、リズムやグルーヴをフレーズ内に創る方法を講義形式で学ぶ。					
【前期】 5～8回目	フレーズのリリースアウトに使うヴィブラート、フレーズ頭で使うエッジの目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。					
【前期】 9～12回目	フレーズにグルーヴを与えるペンドの内容を理解させ、様々なメソッドを知識として学ぶ。					
【前期】 13～17回目	ウイスバーとファルセットの出し方の基本的な形を学び、様々なメソッドを学ぶ。更に、ナチュラルヴォイスとの切り替えに対して必要な身体の使い方を学び、実際の歌唱に繋げていく。					
【後期】 18～21回目	ヒーカップとフォール」エキセントリック歌唱に効果的なヒーカップ、リリースアウトに入れることで効果を生むフォールの内容と目的を学び、それを習得するメソッドを学習する。					
【後期】 22～26回目	「講師作成のフレーズでの実践～アップテンボ編」講師が作成したアップテンボの1フレーズに対して、今まで学習してきたことを活かして歌詞、メロディー、オケ(楽器演奏)に対して、その世界観を伝える効果的なフレーズの作り方を考察する。					
【後期】 27～31回目	「講師作成のフレーズでの実践～バラード編」上の内容のバラード編					
【後期】 32～35回目	既成曲の歌詞、メロディーをピアノで弾いたもの、オケ(楽器演奏)のみを提示し、それに対してどうフレーズを組み上げるかを考察する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	音楽理論Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、 楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になってます。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符、休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、＃系 と b系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、＃系 と b系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～14回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、＃系 b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 15～17回目	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、/ Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、					
【後期】 18～23回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 24～27回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 28～33回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティをあげるような学習。					
【後期】 34～35回目	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	DAW I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行う。					
授業概要						
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)なる知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～27回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 28～32回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 33～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	31回(62単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～13回目	音楽業界基礎知識				
【後期】 14～16回目	音、電気、マイクスピーカーについて				
【後期】 17～29回目	音楽業界基礎知識				
【後期】 30～31回目	所得税と源泉徴収・確定申告				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					